

令和6年度 江戸川区立第三葛西小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

| | | | |
|-------------|--|----------------------------|--|
| 学校教育目標 | 智・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指し、「〈智（ちえ）〉深く考え進んで実行する子・〈仁（おもいやり）〉思いやりのある子・〈勇（ゆうき）〉明るくたくましい子」を本校の教育目標とする。 | 目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像 | 「夢や希望を育てる学び舎としての学校」 ・子どもにとって通うことが楽しい学校 ・子ども自身の夢や希望、子どもにかける家庭や地域の夢や希望を育てる学校 |
| 前年度までの本校の現状 | 成果 ・算数科の問題解決型学習を全教員で統一して進め、全国学力調査において国や都を上回る結果を出すことができ、授業改善の成果を出せた。 ・全校運動遊びの内容や方法の工夫・改善により、児童の運動意欲が高まった。 | 課題 | ・児童が自分の考えや思いを表出する力の育成や場の充実について、校内研究（国語科）を通じた手だての検討。 ・様々な教育活動の取組の様子や学校関係者評価などを、積極的に発信するためのホームページを充実。 |

| 重点 | 取組項目 | 具体的な取組内容 | 数値目標 | 達成度 | | 「中間」自己（学校）評価(A~D) | | 「中間」学校関係者評価(A~D) | | 「年度末」自己（学校）評価 (A~D) | | 「年度末」学校関係者評価 (A~D) | | 次年度に向けた改善案 |
|------------------|---|--|---|-----|----|-------------------|---|------------------|--|---------------------|------|--------------------|------|------------|
| | | | | 9月 | 2月 | 評価 | コメント | 評価 | コメント | 評価 | コメント | 評価 | コメント | |
| 学力の向上 | ○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実 | ・校内研究、校内研修を通じた授業改善 ・学校と民間事業者と連携した放課後補習教室の実施 | ・児童への意識調査結果で、80%以上が、すすんで学習をしていると肯定的な回答 ・放課後補習教室参加者の参加率90%以上 | A | | A | 87%の児童が肯定的な回答をしている。13%に目を向け、対応をしていく。 | A | 研究や研修が計画的に進められているので、今後も継続的に進めてほしい。 | | | | | |
| | ○読書科の更なる充実 | ・学校図書館の環境整備と学校司書の活用 ・教員やボランティアによる読み聞かせ読書活動の充実や読書時間の確保 | ・全学級、学期に3回以上の図書館活用 ・児童への意識調査結果で、80%以上が、すすんで読書をしていると肯定的な回答 | A | | A | 授業内容に応じ、計画的に図書館を活用できている。1学期は全学級実施できた。 | A | インターネットを利用して調べることができるが、書籍の充実を図り、本に触れて調べる機会をさらに増やしてほしい。 | | | | | |
| | ○体力向上に向けた運動意欲の向上 | ・各学期に2週間程度のなわ跳びチャレンジワークの設定 ・マラソン大会実施とマラソン月間の設定 | ・児童への意識調査結果で、80%以上が楽しく取り組むことができた と肯定的な回答 ・児童への意識調査結果で、80%以上が体が動かすのが楽しいと肯定的な回答 | B | | C | 肯定的な回答は66%であった。今年度から始まり、4月に手探りで取り組んだので、2学期以降に調整を図っていく。 | B | 実施の時期を再検討し、年間の変容の様子を見てほしい。また、出前授業の様子も聞きたい。 | | | | | |
| 実現に向けた共生社会の推進 | ○校内の支援体制の充実 | ・特別支援コーディネーターや生活指導主任を軸とした、児童の実態把握と対応の共通理解 | ・教職員が週1回以上の情報共有の機会を設ける。 | A | | B | 毎週金曜日の生活指導夕会での情報共有を軸とし、コーディネーターや生活指導主任が関係者をつなぎ、児童理解に努めている。 | B | 特別支援コーディネーターのように、調整役が校内にいるのは頼もしい。連携を強め、漏れなく支援をしてほしい。 | | | | | |
| | ○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 | ・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、日本語指導員や日本語教室との連携 | ・毎月1回以上、管理職や通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施 | B | | B | 巡回指導を検討する児童や日本語指導を必要とする児童が増えている。適宜、必要な情報を共有をし、対応・支援を行っている。 | B | 相対的に支援が必要な子供が増えていると思う。引き続き個に応じた対応を充実させてほしい。 | | | | | |
| | ○副属交流、交流及び共同学習の実施充実 | ・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施 | ・各学期1回以上の実施 | B | | B | 実施はできているものの、交流というところまで至らないことが多い。通常の学級担任が特別支援学級で授業を行う機会を設け、教員のさらなる児童理解、交流促進のきっかけを模索している。 | B | 本校は特別支援学級があるので、共生社会を生きていける児童の育成に努めてほしい。出張授業の形態は良い挑戦だと思う。今後、変容について聞いてみたい。 | | | | | |
| 不登校・充いめ対応の充実 | ○豊かな心の育成 | ・係・当番活動、委員会活動やクラブ活動、きょうだい学級遊びなど異学年交流の充実 | ・年間3回以上、いじめ問題に関する道徳授業の実施 | A | | B | 各学級、計画通り授業を行っている。特別活動における交流については、部会内で振り返りを行い、次年度に向け検討を重ねている。 | B | 非常に落ち着いた学校であり、今までも大きな問題はないと聞いている。今後とも継続して様々な取り組みをしていけるとよい。 | | | | | |
| | ○Hyper-QUの活用 | ・QUテストの児童の実態把握に基づいた指導の推進 | ・年に1回校内でQU研修会を実施 | B | | C | 実態把握については活用できたが、研修会は実施できていない。学級経営に役立てられるように努めていく。 | B | その時の状況にもよって変わるものだから、参考しつつ、先生たちの目で実態把握をしてほしい。 | | | | | |
| | ○教育相談の強化 | ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係諸機関との連携強化 | ・不登校児童とのSC、SSW連携率100% | B | | B | SCとつながられることは多いが、SSWとの連携に苦慮している。個々の状況に応じ、適切な支援ができるようにしていく。 | B | 登校渋りや不登校が増えていることは心配。丁寧に対応していき、みんな楽しく学校に通えるようにしてほしい。 | | | | | |
| 学校（園）開かれた地域社会の実現 | ○学校（園）ホームページの充実等 | ・学校ホームページの充実 | ・各学年、月2回以上の更新を行う。 | A | | B | 頻度としては、十分な回数の更新ができていない。不定期にはなっているのので、計画的に進めるとともに、教育活動を分かりやすく発信できるように努めていく。 | B | 学年だけでなく、集会や行事の様子なども見られ、ときに先生方の様子も見られてよい。学校日記以外の部分も充実できるとさらによい。 | | | | | |
| | ○学校関係者評価の充実 | ・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施 ・評価項目の見直し | ・保護者アンケート回収率80%以上 | - | | - | 本評価に係る項目に加え、現在、評価項目を精査している。事前に評価していただく内容を通知し、QRコードによる回答を推進することで、回収率向上を目指す。 | - | 評価について、答えやすくすることが大切だと思う。回答のしやすさ、負担感のなさなども含め検討してほしい。 | | | | | |
| 教育の展開 | ○働き方改革の推進 | ・会計年度任用職員の効果的な活用と、週に1回の定時退勤日の設定 | ・全教職員の月残業時間65時間以下 | B | | B | 現状90%以上の職員が達成している。週に1回、リフレッシュデーと命名した定時退勤日を設け、意識の向上を図っている。さらに、働き方改革を推進し、短縮に努める。 | B | 先生方が忙しいのは承知している。45時間以内という数値に近づけることで、先生たちが健康でいて、元気に児童に接してほしい。 | | | | | |
| | ○地域環境を生かした学習活動 | ・大規模公園を使用した行事や、近隣にある施設、店舗等との連携 | ・全校で年間8回以上の実施 | A | | A | 春に、全校オリエンテーリングを宇喜田公園で行った。秋以降も計画通り実施していける予定である。 | A | 地域に密着する活動はよい。地域の施設や人材をさらに活用してほしい。 | | | | | |